



自分で選択し、責任をもって生きる

◇今回は、（早稲田大学基幹理工学部情報通信学科在籍、匿名希望）のレポートです！

はじめまして。関高校卒業生で、現在は早稲田大学基幹理工学部情報通信学科の4年生です。高校時代の恩師から、卒業生として執筆の依頼を受けました。私は現在、関高校の先生たちが想像したような道へ進んでいないと思います。先生が、ぜひ正直に書いてほしいと言ってくださり、自分の考え方を言語化する良い機会だと思い、今回執筆させていただく運びになりました。拙い文章ですが、私が伝えたいことが伝われば幸いです。

私は幼い頃から好奇心旺盛で、音楽や映画など芸術が大好きな子でした。自分の知らない世界に飛び込んでみたいという気持ちが強く、父親が東京に単身赴任していたのもあって進学先は東京にしようと早い段階で決めていました。私と同じ学年で関高校から上京した子は少なく、以前から仲の良い子はほとんどいませんでしたし、人見知りをする私は大学でも友達と気が知れるまで時間がかかりました。上京したばかりの頃は高校時代の友達が恋しくて、岐阜に帰りたくて仕方がなかったことを覚えています。



東京が好きになったのは、サークルに入って友達と仲良くなったからです。高校時代から大学に入ったらミュージカルサークルに入ろうと決めていました。人見知りの私にとって、体験サークルに一人で行くことは勇気を必要とすることでした。しかしそこで出会った友達が、現在の東京の友達の大半で、あの時勇気を出してよかったとつくづく思います。私が所属したミュージカルサークルはインカレといって様々な大学の学生が所属できるサークルでしたし、多くのプロの舞台人が講師をしてくださっていたので、大学にいただけでは出会えないような方々と出会うことができました。

ひょんなことからサークルで出会ったある役者さんにお芝居を見てもらうことになり、その時初めてお芝居の楽しさを知りました。その役者さんに指導してもらったことやサークルの同期と劇団をやったことがきっかけで、もっと歌やお芝居を勉強したい、挑戦してみたいと感じるようになりました。挑戦することに集中するため、2年ほどでサークルへは行かなくなり、現在は自分でレッスンやオーディションを探して、舞台に立っています。歌やお芝居のことを考えるのはとても楽しくて、私が初めて情熱を持って取り組めることだと思っています。

東京に来て、自分の視野の狭さを痛感しました。小学生か中学生くらいの時にふと OL にだけはなりたくない、と感じたことを覚えています。世間のことも働くということも何にも知らなかったけれど、デスクワークや決められたことをただやるのが私には向かないと感じたのでしょうか(偏見だったら申し

訳ないです)。その話を友達にしたとき、「きっと行き着く先がOLだよ」と言われました。私は自分が望んでいないOLになるしかないと半ば諦めていました。また、高校の頃の私はできる限りいい大学へ行き、大学院へ行き、就職するしか道はないぐらいに考えていました。自分が本当にやりたいこと、求めていることがぼんやりしたままに人生の選択をしてきました。進路相談で話していたことは、今思えばやりたいことでも何でもなく、必要とされたから言っただけで自分のやりたいことだと思い込んでいたに過ぎません。大して考えてもいなかったのです。

親や先生、友達の意見を聞いているうちに、人の意見と自分の意見を切り離すことができなくなり、人の意見やアドバイスがまるで自分の意見なのだと錯覚してしまいました。しかし、上京してから出会った人々は私の価値観を大きく変えました。幼いころから映画が大好きだった私は女優に憧れていましたが、馬鹿にされるのが怖くて誰にも言えませんでした。東京で様々な人と出会い話をするうちに、私もやりたいことをやりたいって言ってもいいのかなと感じました。

数か月前、学部で卒業するのか大学院へ進学するのか決める局面を迎えました。人生の岐路です。その時、恐らく人生で初めて自分が本当にやりたいことは何なのかと考えました。初めて自分の人生に向き合いました。それはとても辛くしんどいことで、毎日のように心が重たく、たくさん泣きました。できるなら考えたくないことでした。人生一度きりとはよく言いますが、この時初めて実感しました。

しばらく考えた後、私は一度きりの人生を私は自分の好きなこと、情熱をもって取り組めることに時間や労力を費やしたい、今これだけやりたいことがあるのに安定した生活のためにやりたいことを諦めるなんて間違っている、と感じました。

私はやりたいことを見つけたとき、やりたいことをやりたいと人に言えたとき、とてもわくわくしました。不安な気持ちも沢山ありますが、やりたいことを見つけれられたことを幸せに思いますし、自分自身を誇りに思います。今回初めて自分の意志で自分の人生の選択をしたと自信を持って言えます。人の意見は参考にしましたが、自分で決断しました。自分の人生に責任を持つとは、自分で決断することだと思います。私は自分の人生に責任を持って生きていきたいです。自分で決断したことなら、失敗してもそこから多くのものを教訓として得られるでしょう。人の意見に従って失敗すると傷つくのは自分です。



時代は常に変化し続けています。有名大学に入学し就職すれば、終身雇用で死ぬまで安泰なんていう時代ではありません。社会がどうなるかなんて誰にも分かりません。どのような職業に就いても、楽しいこともあれば辛いこともあるでしょう。そうであるならやはり、私はやりたいことをやる人生にしたいです。私は高校時代、できるだけ有名な大学に入ることばかり考えていましたが、大学へ入ることが最善なのでしょうか。大学での出会いより、大学以外での出会いのほうが私にとっては価値がありました。今の私なら当時の選択とは違う選択をしたと思います。本当にやりたいことがあるなら大学へ入学する必要はないかもしれません。やりたいことがないから大学へ入学するつもりの人もいるでしょう。周りに流され、ぼんやり過ごしていたらやりたいことを見つけれられないまま就職活動を始めなければならなくなります。

私は情報収集をし、様々な所に顔を出しました。初めての所に行くことは私にとってとても勇気のいることでしたが、一生仲良くしたい友達や尊敬できる先輩方に沢山出会うことができました。私の視野を広げてくださった素晴らしいご縁に感謝しています。重要なのは、自分にとって今何が一番大切なのか、と考えることだと思っています。これは常に移りゆくものです。人の考えと自分の考えを切り離し、自分の意志で人生の選択をし続け、自分の人生に責任を持ちたいです。

最後に、この素晴らしい機会を与えてくださった先生に感謝申し上げます。地元には、私を気にかけてくださる友達や先生方がたくさんいることを改めて思い出させてくださいました。私は岐阜でも東京でも周りの方に恵まれ、とても幸せです。最後まで読んでくださりありがとうございました。